

先輩職員インタビュー

自動車アセスメント業務

本部 自動車アセスメント部 チーフ

2009年入構



より安全な自動車・チャイルドシートの普及のために

—入構の決め手は何ですか。



私がナスバを知ったきっかけは、ゼミの先生からの紹介です。

もともと自動車が好きで、大学では自動車の無段変速機について研究していました。身近な後輩が交通事故で亡くなったことで交通事故の怖さを実感し、自動車の安全を意識するようになりました。紹介されたナスバを調べると、被害者支援と自動車事故防止を通して、安全・安心・快適な社会作りに貢献するという使命のもと、自動車事故対策の専門機関として事業に取り組んでいるということがわかり、入構を志望しました。

—業務の役割を教えてください。

現在、自動車アセスメント部において自動車アセスメント業務を担当しております。

自動車アセスメントは、車に乗る人が安全な車選びをしやすいように、そして車を作るメーカーがより安全な車の開発をするように、より安全な自動車・チャイルドシートの普及のため、一般に販売されている自動車・チャイルドシートに対して安全性能の評価を行っています。具体的には、市販されている乗用車は、全て国が定めた保安基準に適合していますが、事故時に人を守る技術（衝突安全性能）や事故を防ぐための新しい技術（予防安全性能）等は車種によって違いがあります。このため、これらの安全性能を比較するための試験を行い、その結果を公表しているものです。

その中で私は、試験対象となる車種選定のための資料作成から試験車両等の購入、試験に必要な資料の調整、各試験の実施・管理監督、試験結果の評価案作成、結果を公表するホームページの更新など幅広く携わっています。



寄り添うナスバ 頼れるナスバ

—やりがいは何ですか。

自動車アセスメントの結果を参考にして購入したという声をユーザーの方から頂いたときは嬉しかったです。自分の業務が認められた気がしました。自動車を購入する際、価格・デザイン・燃費・メーカーなどを気にされる方が多いと思います。一方で事故を回避する予防安全性能や衝突時の安全性能を重視する方はまだ少ないのが現状です。しかし、交通事故は誰にでも起こりうるものですし、自分が被害者にも加害者にもなりえます。交通事故を起こした方、交通事故で重度の後遺障害を受けた方、交通遺児等の方の声等もお伝えすることで、その声を聞いた自動車の購入予定の方が「次の車は安全性も気にしてみるよ」とおっしゃっていました。車に乗る人やチャイルドシートを購入する人に、より安全なカーライフを楽しんでいただけるよう、今後もユーザーへの情報提供と安全な自動車開発の促進に貢献していきたいと考えています。

ー職場の雰囲気やよいところはなんですか。

ナスバは風通しの良い職場にすることを"みんなで実践"するため、明るく安心感のある雰囲気でのコミュニケーションが取りやすいと感じています。また、経験豊富な先輩職員の方々がたくさんいるため、困った時等も周りの先輩職員方に相談すると耳を傾けて話を聴いてくれたり、的確なアドバイスでサポートしていただけたりと、風通しの良い職場であると感じます。

自分の「可能性」と「夢」を見つめて



ー将来の目標を教えてください。

輸入車の試験を実施したときに自分の語学力の低さに歯がゆさを感じたことがあり、そのことをきっかけに、英語を活かす環境があると気づき、語学の勉強を始めました。その過程で自動車の国際的な基準や自動車アセスメント情報のグローバル化に関する知識を得ることができました。

今後もより安全な自動車やチャイルドシートの普及に向けて国内外の情報に積極的に触れ、世界に通用する専門的知識や技能を習得していきたいと考えています。



ー最後に学生の方に向けてメッセージをお願いします。

ナスバは自動車事故対策の専門機関として、自動車事故のない社会を追い求め、被害者支援と自動車事故防止、これを両輪として事業に取り組んでいます。安全・安心・快適な社会作りに貢献するやりがいのあるお仕事がたくさんあり、仕事とともに成長できる環境があると感じます。

皆さんと一緒にナスバでお仕事ができる日を楽しみにしています。

自己紹介

平成21年4月入構。最初は企画部に配属、その後、運転者の適性診断等の安全指導業務、在宅介護への支援・交通遺児友の会等の被害者援護業務等を担当し、現在の自動車アセスメントによる安全情報の提供業務に携わっています。

休日は子供と一緒に散歩したり、伝承遊びをしています。家族と過ごす何気ない時間が私にとっての癒しの時間です。

